事業評価において特に優れた事業と認められた事業一覧（平成１８年度助成事業）

No.	評価先団体	事業名	助成区分	基金区分	掲載ページ
1	社団法人　日本社会福祉士会	地域包括支援センターにおける総合相談・権利擁護業務の評価に関する研究事業	一般分	長寿	1
2	社会福祉法人　日本点字図書館	インターネットを用いたＤＡＩＳＹ録音図書製作事業	一般分	高・障	2
3	社団法人　日本てんかん協会	てんかんのある障害者の生活支援体制を構築するための事業	一般分	高・障	3
4	特定非営利活動法人　Ｗｉｎｋ	養育費・面接交渉推進の為の調査と推進事業	一般分	子育て	4
5	日本障害者フライングディスク連盟	障害者ディスクゴルフの啓発・普及事業	一般分	障スポ	5
6	社団法人　日本フィランソロピー協会	企業との協働で推進する知的障害者の経済的自立支援事業	特別分	高・障	6
7	社団法人　日本精神保健福祉士協会	精神障害者の自立生活を支えるための「権利マニュアル」作成事業	特別分	高・障	7
8	特定非営利活動法人 西成後見の会	成年後見制度を活用した包括的権利擁護事業	特別分	高・障	8
9	特定非営利活動法人　視聴覚二重障害者福祉センターすまいる	視聴覚二重障害者向けＩＴシステム開発事業	特別分	高・障	9
10	特定非営利活動法人奈良県自閉症協会 （旧名称：社団法人日本自閉症協会奈良県支部）	発達障害者の就労・自立支援のための人材養成事業	特別分	高・障	10
11	特定非営利活動法人 プレーパークせたがや	「屋外型」子育てサロン事業	特別分	子育て	11
12	特定非営利活動法人　ＴＥＥＮＳＰＯＳＴ (旧名称：ティーンズポスト)	子どもと大人のための非暴力プログラム啓発事業	特別分	子育て	12
13	特定非営利活動法人 ブリッジフォースマイル	児童養護施設の高校生を対象にした自立支援事業	特別分	子育て	13
14	日本ファミリーホーム協議会 （旧名称：里親ファミリーホーム全国連絡会）	里親ファミリーホームマニュアル作成事業	特別分	子育て	14
15	特定非営利活動法人　市民フォーラム２１・ＮＰＯセンター	子育て緊急サポートスタッフ人材養成事業	特別分	子育て	15
16	特定非営利活動法人 アビリティクラブたすけあい	ＳＰＳＤによる認知症を抱える家族の支援事業	地方分	高・障	16
17	特定非営利活動法人 自立支援センターむく	パソコンと工作機器を使用した障害者の職業訓練と就労支援事業	地方分	高・障	17
18	社会福祉法人　豊田市福祉事業団	障害者の情報リテラシー支援事業	地方分	高・障	18
19	特定非営利活動法人　メディカル・コミュニケーション・ネットワーク	がん患者在宅ケアを支える地域連携促進事業	地方分	高・障	19
20	社会福祉法人　四日市福祉会	知的障害者の社会参加推進支援事業	地方分	高・障	20

No.	評価先団体	事業名	助成区分	基金区分	掲載ページ
21	特定非営利活動法人 恒河沙母親の会	ＮＰＯ法人恒河沙母親の会による飲食店運営事業	地方分	高・障	21
22	障害者の地域生活をつくる結の会	障害者と地域の交流事業	地方分	高・障	22
23	美容セラピー推進会	化粧療法による高齢者支援事業	地方分	高・障	23
24	特定非営利活動法人 ヘルスプロモーションかごしま	離島におけるＡＤＬ体操指導者養成事業	地方分	高・障	24
25	特定非営利活動法人 子育て応援・ペンギンくらぶ	てんかんのある障害者の生活支援体制を構築するための事業	地方分	子育て	25
26	特定非営利活動法人　みれっと	アレルギーっ子の子育てネットワーキング・サポート事業	地方分	子育て	26
27	特定非営利活動法人　ｉ－ｎｅｔ	浦安子育て支援ネットワーク形成事業	地方分	子育て	27
28	社会福祉法人　荒川区社会福祉協議会	荒川区子育て・子育て支援団体情報発信事業	地方分	子育て	28
29	てんぱくプレーパークの会	野外におけるつどいの広場事業	地方分	子育て	29
30	特定非営利活動法人　芹川	芹川プレイパークのびのび事業	地方分	子育て	30
31	社会福祉法人　西陣会	高学年障害児童の家族支援とインクルージョン推進事業	地方分	子育て	31
32	特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば	みんなで創る「山科だいすきガイド」事業	地方分	子育て	32
33	たんぽぽハウス	市民病院小児病棟の為の宿泊施設開設の運営事業	地方分	子育て	33
34	特定非営利活動法人 ふれあい囲碁ネットワーク大分	ふれあい囲碁を活用した地域づくり推進事業	地方分	子育て	34
35	特定非営利活動法人 ハートスペースM	デートＤＶ防止プログラムの実施と啓発事業	地方分	子育て	35
36	宝塚障害者スポーツクラブ・ボッチャ部	障害者スポーツ推進・選手育成事業	地方分	障スポ	36
37	特定非営利活動法人 吹矢ｄｅ元気！協会	せぇ～の「ふっ～！」で、みんなが元気！になる楽しい「吹矢」ニュー・スポーツ推進事業	地方分	障スポ	37

一般分：長寿社会福祉基金

社団法人　日本社会福祉士会

【地域包括支援センターにおける総合相談・権利擁護業務の評価に関する研究事業】

（助成金額：１２，５７２千円）

＜事業の紹介＞

　地域包括支援センターに従事する社会福祉士が自らの実践の振り返りを通して「気づき」を促し、個々の社会福祉士の力量向上につなげていくための支援ツールとして「地域包括支援センター社会福祉士「評価シート」」を開発する。この評価シートを用いて全国１０名の地域包括支援センターの社会福祉士を対象にモデル評価を実施し、この成果を踏まえ、社会福祉士支援を行う支援者養成のために「地域包括支援センター社会福祉士「評価シート」活用研修」を開催する。また、スタート半年後の地域包括支援センターの社会福祉士を対象とした業務環境調査を実施し、これらの事業を報告書としてとりまとめ、全国の地域包括支援センターに配布する。

＜評価部会委員によるコメント＞

　改正介護保険によりスタートした地域包括支援センターでは、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士がおかれることとなったが、介護予防プラン作成に追われ、社会福祉士の役割や現状もはっきりと把握されていなかった。今回の実態調査では、かなり詳細な実態が明らかにされ、こうしたことは初めての試みではなかっただろうか。また、評価シートの作成は倫理綱領などともリンクされた作り込みがなされており、それを使用したモデル評価、その結果をも利用した研修会により、トータルとして、地域包括支援センターでの社会福祉士の役割のみならず、社会福祉士のソーシャルワーカーとしての役割を再確認させる内容となっている。教材類、報告書、DVD も活用が期待でき、来年度の更新、普及が期待される。

＜助成事業による成果物など＞

○報告書「地域包括支援センターにおける総合相談・権利擁護業務の評価に関する研究事業 中間報告書」

○ＤＶＤ「地域包括支援センター社会福祉士『評価シート』活用研修―支援者参考用―」

（団体の問い合わせ先）
〒160-0004　東京都新宿区四谷１－１３　カタオカビル２階
ＴＥＬ：０３－３３５５－６５４１
http://www.jacsw.or.jp/

一般分：高齢者・障害者福祉基金

社会福祉法人　日本点字図書館

【インターネットを用いたＤＡＩＳＹ録音図書製作事業】

（助成金額：３，７３５千円）

＜事業の紹介＞

サービス需要が増しているＤＡＩＳＹ録音図書の増産と製作期間短縮化を実現するために、①ネットワークシステムの操作講習会を開催する。②ネットワーク録音・ＤＡＩＳＹ図書編集製作を行う。③製作完了図書の配信サービスを行う。

＜評価部会委員によるコメント＞

日本点字図書館ではこれまでも福祉医療機構の助成を受けて３年単位で録音テープのデジタル化とデイジー化を進めてきており、今回も３年計画でインターネットを活用したデイジー録音図書製作に取りくんでいる。点字図書館ならではのノウハウとネットワークを生かした事業でタイミングとしてもよい。録音図書の世界における革新的な事業としてその成果もみえつつある。読者側と音読ボランティア側のニーズ把握も適切であり、今後２年の基礎作業としての成果は大きい。一般分の助成制度を活用した極めて適切な事業と思われる。今後はより広くネットワークを広げていく方針でもあるようなので、特に改善を要する点はない。自己評価はＢであるが３年計画の初年度事業としては十分にＡに耐える。

＜助成事業による成果物など＞

○報告書「録音図書利用者・製作者アンケート実施報告書」

（団体の問い合わせ先）
〒169-8586　東京都新宿区高田馬場１－２３－４
ＴＥＬ：０３－３２０９－０２４１
http://www.nittento.or.jp/

一般分：高齢者・障害者福祉基金

社団法人　日本てんかん協会

【てんかんのある障害者の生活支援体制を構築するための事業】

（助成金額：８，３２５千円）

＜事業の紹介＞

てんかんのある障害者の自立生活支援体制を構築し、生活安定に向けた取り組みを強化するため、①重複障害者（てんかんとそれ以外の障害）の生活支援に関する課題について検討する調査（実地調査・アンケート調査）を実施する。②支援モデルを構築する。③支援マニュアルを作成する。

＜評価部会委員によるコメント＞

３年継続事業の２年目の事業で、てんかんと知的障害、身体障害の重複障害を対象するという基本的な発想はこれを高く評価する。対象者のうち、特に重度の人達には医療と福祉の連携が必要で、支援が直接「生命」に関わっていると報告書の中で述べ、更にてんかんのある人への支援には幅広い知識と視野が必要、と述べている。こういう視点も評価したい。委員会のメンバーも妥当で、特に医療・福祉関係者の中にリハビリ専門医の他、教育関係者もいる点は評価したい。他団体（他機関）との連携についても、日本障害者協議会の一員であり、日本重症児福祉協会との連携もスムースという。対象になるような重度児・者は主として施設で、軽度障害者は通所でサービスをうけているというが、その中間位のケース（発作は軽度だが就労等に結びつかず、自立が困難なてんかんのある人）が対象になるグループホームなどのサービスや支援は全国的にも少ないという。今後の事業展開については更に「生活支援」をテーマに継続したいということで、その熱意を買いたい。

＜助成事業による成果物など＞

〇冊子「てんかんと重度・重複の障害がある人が生きていくために」

〇報告書「てんかんのある障害者の生活支援体制を構築するための事業」

（団体の問い合わせ先）
〒162-0051　東京都新宿区西早稲田２－２－８　全国心身障害児福祉財団ビル４Ｆ
ＴＥＬ：０３－３２０２－５６６１
http://www.jea-net.jp

<平成１８年度助成事業＞

一般分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　Ｗｉｎｋ

【養育費・面接交渉推進の為の調査と推進事業】

（助成金額：１，５７９千円）

＜事業の紹介＞

離婚後の養育費確保の重要性の啓発と、さまざまな角度からの相談者救済のため、①養育費をテーマとしたシンポジウムを開催する。②１７年度に構築した法制度を活用した支援ネットワークをより効果的に運用する。③事業効果測定のため、シンポジウム参加者、ネットワーク利用者、ビデオ配布先にアンケート調査を実施する。④報告書にまとめる。

＜評価部会委員によるコメント＞

シンポジウムの内容、成果物としての報告書、ともに充実した内容である。特に、報告書のなかで明らかにされているように、協議離婚における養育費の取り決めについて、司法書士・行政書士の活用という新しい方向性が提示されているのは大きな成果である。報告書のまとめ方も魅力的であり、極めて実際的な情報提供がなされており、こうした団体の報告書としては水準の高いものとして評価される。シンポジウム・報告書の内容は、離婚問題に直面している人に直接の参考になるものである。

＜助成事業による成果物など＞

○報告書「養育費と面接交渉の調査と推進事業」

（団体の問い合わせ先）
〒277-0835　千葉県柏市松ヶ崎１１７０－２７６　マミー＋ハウス１０１
ＴＥＬ：０４－７１３７－２００８
http://www.npo-wink.org/

一般分：障害者スポーツ支援基金

日本障害者フライングディスク連盟

【障害者ディスクゴルフの啓発・普及事業】

（助成金額：２，２４８千円）

＜事業の紹介＞

福祉施設や学校のグラウンド、体育施設などの日常的生活空間で、障害者が障害の種類や程度にかかわらずに気軽にディスクゴルフを楽しむ環境を整えるため、①障害者ディスクゴルフ用具の開発及びコースレイアウトの研究を行う。②競技会を行う。

＜評価部会委員によるコメント＞

アーチェリーのフィールドアーチェリー競技のように自然の中で行える競技であり、どんな障害のある人でも、また、障害のない人でも一緒に親しめる競技として、啓発・普及に取り掛かったところであり、見通しが見られる。現状では、障害者関連施設などを中心に競技場、指導者やボランティアの確保に努めているが、市民スポーツの組織などとの強調が進められれば、さらに多くの障害者が親しめるようになると思われる。

用具の工夫にもすばらしいものがみられ、特別なものを作る工夫とあわせて、身近にあるものを活用する工夫は特筆できる。

＜助成事業による成果物など＞

〇報告書「平成１８年度障害者ディスクゴルフの啓発・普及事業」

〇競技用具類

（団体の問い合わせ先）
〒111-0021　東京都台東区日本堤２－３２－８　　いいづかビル
ＴＥＬ：０３－３８４７－８５２２

特別分：高齢者・障害者福祉基金

社団法人　日本フィランソロピー協会

【企業との協働で推進する知的障害者の経済的自立支援事業】

（助成金額：５，０００千円）

＜事業の紹介＞

知的障害者の生活・経済自立支援を推進することを目的に、障害者の自立支援事例を収集し報告書にまとめ、先駆的なモデル事例を紹介するシンポジウム開催する。

＜評価部会委員によるコメント＞

高いレベルの発想と内容の事業である。今後の展開としては、この事業を各企業に浸透させる方法が期待されるだろう。こうした事業は、やがて精神障害者の社会参加にも及ぼしていただきたい。

＜助成事業による成果物など＞

〇冊子「社会に活かそう障害者の力！」

〇シンポジウム資料

〇チラシ

（団体の問い合わせ先）
〒100-0004　東京都千代田区大手町２－２－１ 新大手町ビル２４４区
ＴＥＬ：０３－５２０５－７５８０
http://www.philanthropy.or.jp/

<平成１８年度助成事業＞

特別分：高齢者・障害者福祉基金

社団法人　日本精神保健福祉士協会

【精神障害者の自立生活を支えるための「権利マニュアル」作成事業】

（助成金額：４，８２４千円）

＜事業の紹介＞

精神障害者の自立生活を支援し、実際の生活に役立ててることを目的に、情報や知識、権利擁護に関する活動事例、課題等をまとめ、マニュアル作りを行う。

＜機構事務局によるコメント＞

精神障害者の地域での自立生活を目指すためのマニュアル作成事業。自立促進、地域生活の維持･安定、権利擁護、住まいや関係制度などについて幅広に盛り込まれている。フルカラーではないものの、文章表現や構成、イラストなど細部にわたって工夫され、当事者でも分かりやすいような体裁となっており、非常に読みやすい。当事者のみならず、家族、関係機関、一般を含め理解の促進が期待でき、「誰が読んでも７～８割は理解できる冊子づくり」を目指した点が成功している。

＜助成事業による成果物など＞

○冊子「精神障がい者の生活サポートハンドブック」

（団体の問い合わせ先）
〒160-0015　東京都新宿区大京町２３番地３　四谷オーキッドビル７Ｆ
ＴＥＬ：０３－５３６６－３１５２
http://www.japsw.or.jp/

<平成１８年度助成事業＞

特別分：高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人　西成後見の会

【成年後見制度を活用した包括的権利擁護事業】

（助成金額：５，０００千円）

＜事業の紹介＞

成年後見制度を活用した支援を可能にするシステムづくりと制度を支える後見人の確保と養成を目的に、個別支援のあり方、法人後見の検討及び実施のためのマニュアルを作成し、また、市民を対象とした市民後見のプログラムを実施する。

＜評価部会委員によるコメント＞

アドボカシートの作成など、改良の余地はあるものの、実務面で他の団体や行政で活用できるものを開発している。法人後見調査は初めての試みであり、成果が全て結実しているわけではないが、今後成果が期待される団体であり、活動である。

＜助成事業による成果物など＞

○報告書「成年後見制度を活用した包括的権利擁護事業」

○「アドボカシート Ver.1.0」

（団体の問い合わせ先）

〒〒557-0063　大阪府大阪市西成区南津守７丁目 12 番 32 号　白寿苑気付

ＴＥＬ：０６－６６５１－３００４

http://www.nishinari-kouken.org

特別分：高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人　視聴覚二重障害者福祉センターすまいる

【視聴覚二重障害者向けＩＴシステム開発事業】

（助成金額：４，９７４千円）

＜事業の紹介＞

視聴覚二重障害者を対象としたＩＴのコミュニケーション支援システムを開発し、講習会の開催や普及を目的に、遠隔地リアルタイムコミュニケーションが可能となるツールを開発し、ユーザーマニュアルを作成する。

＜評価部会委員によるコメント＞

盲ろう障害者が盲ろう障害者や盲・ろうの障害をもつ人、あるいは健常者と会話する場合には、触手話や指点字などの特別の技術を必要とするが、環境調整を行ったパソコンを用いて受発信すると直接コミュニケーションをとることができ、盲ろう者のコミュニケーション機会が抜群に増える可能性がある。今回はそのソフトを開発するもので、そのニーズは極めて大きいものと思う。そのソフト開発は、実際にどのような障害を持つ人たちにも使いやすいものにするには、試用実験を繰り返し改善していく必要がある。今回の助成では、その第一段階のテキストチャットのシステムが完成し、大阪と東京で講習会を開催するとともに、ホームページで公開して全国の盲ろう者の反応を確かめ、改善をすすめている。システム開発にあたった「きじねこ」はこれまでに「イージーパッド」の開発などで協働してきており、使用者の要望などについてはとく理解をしていたように思う。助成終了時における完成度や普及度から見れば自己評価通りＢに該当するが、その意義と１年間の成果としてはＡとしても十分のように思う。特別分に相応しい成果をあげていると判断する。

＜助成事業による成果物など＞

○開発ソフト「IT システム すまいるチャット」

○報告書「視聴覚二重障害者向け IT システム開発事業報告書」

○冊子「すまいるチャット　取扱説明書」

（団体の問い合わせ先）
〒543-0037　大阪府大阪市天王寺区上之宮町４－４０　上之宮台ハイツ１０１号
ＴＥＬ：０６－６７７４－３３４７
http://www.deafblind-smile.org/

<平成１８年度助成事業＞

特別分：高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人　奈良県自閉症協会

（旧名称：社団法人　日本自閉症協会奈良県支部）

【発達障害者の就労・自立支援のための人材養成事業】

＜事業の紹介＞

発達障害児者の支援ニーズに対応することを目的に、親やボランティアが一定の専門性を身に付け、障害児者の就労や自立のための相談にのり、自助的に支援できる力量を身に付ける。

＜評価部会委員によるコメント＞

発達障害者・児への対応は、支援法が成立した現在でも非常に遅れ、これに対応出来る専門職も少ない。こうした状況を踏まえ、親やボランティアが一定の専門性を身につけて、自立のために支援出来る能力を身につけようという発想は評価したい。そのために講演会、相談会、メンター養成講習会を開催しているが、これらの養成講習会により、初回ながらメンターを１５人程度養成までこぎつけた努力も評価したい。また、アスペルガー症候群などの軽度の障害者・児は見逃されやすいが、本事業ではこれらも対象にしている。奈良県は、自閉症への対応（医療も福祉も含む）は非常に遅れ、支部結成も全国では最後で平成１０年に結成されたというが、この間に努力を重ね、本事業を立ち上げた関係者の熱意を買いたい。ネットワークについても、最近は行政や組織、団体が支援してくれるようになり、親の会、ＯＴの会、臨床心理士等によるネットワークができたのも本事業によるところが大きい。成果物であるリソースブックについてもレベルが高い。本事業に対するマスコミの関心も高く、新聞でも報道され、社会の関心は大きかったといい、団体の今後の事業展開にも期待が持てる。

＜助成事業による成果物など＞

○冊子「奈良県で暮らす発達障害児・者のために　豊かに暮らしたい」

（団体の問い合わせ先）
〒639-1055　奈良県大和郡山市矢田山町８４－１０
ＴＥＬ：０７４３－５５－２７６３
http://www.eonet.ne.jp/~asn/

特別分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　プレーパークせたがや

【｢屋外型｣ 子育てサロン事業】

（助成金額：４，８８６千円）

＜事業の紹介＞

子どもの発達を促すとともに情緒の安定を図り、親がおおらかな子育てを体得することを目的とし、屋外型子育てサロンを開催し、子育てプログラムの開発、ファシリテーター養成等を行う。

＜評価部会委員によるコメント＞

子育てサロンは全国各地に普及しているが、その大半が屋内型である。公園デビューという言葉が既に死語となっているように、母親の多くは公園等の屋外で子どもを遊ばせる機会を持っていない。こうした現状にあって、本事業は、当法人のこれまでの活動実績を活かして、乳幼児期の子どもをもつ親子を対象に広げた屋外型子育てサロンに着手したことは意義が大きい。その成果も着実なものが認められる。

＜助成事業による成果物など＞

○報告書及び資料編「おそとだいすき」

（団体の問い合わせ先）
〒154-0016　東京都世田谷区弦巻１－４５－１３　メゾンサツキーＡ
ＴＥＬ：０３－３４１４－４１７５
http://www.playpark.jp/index.html

特別分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　ＴＥＥＮＳＰＯＳＴ

（旧名称：ティーンズポスト）

【子どもと大人のための非暴力プログラム啓発事業】

＜事業の紹介＞

暴力を選ばない社会づくりと次代の健全育成につながる子育て家族への支援活動および啓発を目的とし、非暴力プログラムの開発、公開講座を開催する。

＜評価部会委員によるコメント＞

事業報告の内容、成果物の水準等からみて、団体としての力量が極めて高いことがうかがわれる。リーダーの資質とこの仕事に賭ける信念や情熱に信頼できるものがあり、任意団体ながら１５年の実績をもつこと、またこの団体によってエンパワーされた回復者たちをスタッフや協力者にしながら着実に活動を発展させていることが、十分にうかがわれる。とくに、機構がＨ１０、１２、１４、１６年度とほぼ持続的に助成してきたことが活動の発展という成果を生んでいると考えることができる。今回の報告と成果物をみるかぎり、これだけの活動が１年間に本当に可能なのかと目を見張るばかりである。

＜助成事業による成果物など＞

〇報告書「非暴力のつながりを生みだす」

〇絵本「クマのリーダー」

〇ワークショップテキスト

（団体の問い合わせ先）
〒194-0013　東京都町田市原町田３－８－１２　アミクラビル５階
ＴＥＬ：０４２－７２０－０２２１
http://www.teenspost.jp/home.htm

特別分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　ブリッジフォースマイル

【児童養護施設の高校生を対象にした自立支援事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

高校生たちが将来の目標・自信・相談できる仲間を持てるようにすること
を目的とし、セミナーやオプション講座を開催し、ハンドブックを作成する。

＜機構事務局によるコメント＞

本事業は、東京・神奈川にある児童養護施設在園の高校生を対象に「巣立ちプロジェクト」のもと、セミナーやイベントを通じて、卒園後の社会的自立に向けた必要な知識等を学び、サポートしていくものである。生徒が社会との接点・交流機会を持てたことは大変意義があったものと思われる。参加した高校生をはじめ、支援する側の施設職員やボランティアからは、概ね満足のいく評価を得ており、成果が見られる。このプロジェクトには、主旨に賛同した企業や団体からの後援・協賛・協力を得ることができている。また本事業で作成したＤＶＤは、同じ境遇にあった先輩たちの体験メッセージを聞くことができるようになっている点も評価できる。さらに団体のＨＰからは、その後のアフターケア支援が行われていることが確認でき、フォローも担保されている。以上のことから、今後の取組みにも期待が持てるものである。

＜助成事業による成果物など＞

〇報告書「巣立ちプロジェクト 2006 報告書」

〇ＤＶＤ

〇パンフレット

（団体の問い合わせ先）
〒100-6514　東京都千代田区丸の内１－５－１　新丸の内ビルディング
（株式会社パソナグループ内）
ＴＥＬ：０７０－５０８４－２３１３
http://www.b4s.jp

<平成１８年度助成事業＞

特別分：子育て支援基金

日本ファミリーホーム協議会
（旧名称：里親ファミリーホーム全国連絡会）

【里親ファミリーホームマニュアル作成事業】

＜事業の紹介＞

子どもの家庭で暮らす権利をより推進することを目的に、全国の里親ファミリーホームの情報交換・ノウハウ収集を行い、マニュアルを作成する。

＜評価部会委員によるコメント＞

社会的養護が必要な子どもの里親への委託は１割に満たないが、里親ファミリー制度は養護施設と里親制度の中間的形態を持つ先駆的事業で、いわばグループホーム的な機能を養護家庭が持ち、運営しようとするもので、里親制度に新しい分野を拓くものとして期待される。現在、国の段階ではこうした制度は制度化されておらず、自治体で支援がある程度であり、数も少ない。今回の助成で、こうした活動をしている人々を結びつけ、ネットワークが生まれ、研究者の協力を得て全国会議が開催され、里親ファミリーホームの意義や展開方法、制度化の必要性が明らかになり、運営・生活マニュアルとしてまとめられた意義は大きい。マスコミもかなり取り上げ、社会的関心も高められた。厚生労働省での社会的養護体制に関する検討会にもマニュアルが提供され、構想づくりに貢献した点も高く評価される。内容的には大きな成果をあげているが、実施体制は大変厳しい中で行われており頭が下がる思いであった。

＜助成事業による成果物など＞

〇報告書「里親ファミリーホーム運営・生活マニュアル」

〇チラシ

（団体の問い合わせ先）
〒116-0011　東京都荒川区西尾久５－８－７　若狭 一廣　様方
ＴＥＬ：０３－３８９３－５０７２

特別分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　市民フォーラム２１・ＮＰＯセンター

【子育て緊急サポートスタッフ人材養成事業】

（助成金額：５，０００千円）

＜事業の紹介＞

子どもの病気の予防や健康づくりが必要であることを伝えていける人材を養成することを目的とし、スタッフ養成講座の実施や手引書を作成する。

＜機構事務局によるコメント＞

病児保育に関する支援スタッフの養成及びその手引書の作成が行われている。前者では、全国３ヶ所での講座、フォーラム、受講生のフォローアップが行われ、スキル向上につながることができ、ほぼ満足のいく評価を得ることができている。また後者の手引書については、病児保育に必要な知識と役立つ情報の提供ができており、加えてコンパクトに使いやすく工夫がされており、質の高い仕上がりとなっている。今後の活用・普及に大いに期待がもてる。また独自に展開を予定している関係機関・団体と連携し、養成した人材が地域に根ざして活動できるシステム構築にも期待ができる。

＜助成事業による成果物など＞

〇冊子「病児・病後児サポートスタッフのための手引書」

〇チラシ

（団体の問い合わせ先）
〒450-0003　愛知県名古屋市中村区名駅南１－２０－１１　ＮＰＯプラザなごや２階
ＴＥＬ：０５２－５８６－１１５４
http://www.sf21npo.gr.jp/

地方分：高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人　アビリティクラブたすけあい

【ＳＰＳＤによる認知症を抱える家族の支援事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

認知症高齢者の理解のための講座、そのための模擬演技者養成研修等。

＜評価部会委員によるコメント＞

大変興味深い福祉開発を行っている。民間でなければ思いつかない企画であり、認知症ケアを行う家族や一般市民に対して、認知症を知るための新しいツールとなる。

＜助成事業による成果物など＞

〇ＤＶＤ「ＳＰＳＤによる認知症を抱える家族を支える研修ＤＶＤ　認知症の人を感じて～もし自分が認知症になったら～」

〇公開講座募集チラシ

〇テキスト

（団体の問い合わせ先）
〒160-0021　東京都新宿区歌舞伎町２－１９－１３　ＡＳＫビル７階
ＴＥＬ：０３－５１５５－０８３５
http://www4.ocn.ne.jp/~tokyoact/

地方分：高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人　自立支援センターむく

【パソコンと工作機器を使用した障害者の職業訓練と就労支援事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

身体・知的・精神障害者向けの就労支援事業。職業訓練用のパソコンと工作機器の物品代と機器の使用方法のレクチャー代。

＜評価部会委員によるコメント＞

もともと障害種別に分けずに活動しており、そうしたところは現在も数は多くはない。その中で、就労に結びつけるための訓練と、工賃を少しでも上げるための製品作りの両方を意図して、今回の試みをした点は、先駆的であり注目できる。課題は販路の確立であり、現在は区内のフェアで売った程度で、価格のつけ方も高いということで値下げした。そうした販路への支援する専門家がいれば、もっと広がる可能性がある。10 月からは江東区の療育センターの売店運営を受け、そこでも製品を販売する予定とのことである。ＮＰＯの良さを活かして創意工夫している。

＜助成事業による成果物など＞

○チラシ

（団体の問い合わせ先）
〒100-0000　東京都江戸川区鹿骨５－２９－２
ＴＥＬ：０３－３６８４－１６０２
http://www9.plala.or.jp/jmuku/

地方分：高齢者・障害者福祉基金

社会福祉法人　豊田市福祉事業団

【障害者の情報リテラシー支援事業】

（助成金額：１，３７３千円）

＜事業の紹介＞

知的能力や判断力に問題がある障害者が、情報を伝えること・情報を選択すること・情報を発信するためにどのような支援が必要か検討するため会議、講演会等を行う。

＜評価部会委員によるコメント＞

障害者自立支援法制定と実施という時期を見据えた事業であり、ねらいとしては高く評価できる。障害のある方々への個別・継続支援のための基礎的作業として、当事者及び家族のニーズ（気持ちも含めて）把握と関係形成とその維持を確保していくためのコミュニケーションの確立に向けての方法とシステムに関する研究事業であり、今後ともにその成果に期待するものである。事業団の事業計画に継続して盛り込まれており、今後、その成果に期待したい。

＜助成事業による成果物など＞

〇ポスター

〇講演会資料

（団体の問い合わせ先）
〒471-0062　愛知県豊田市西山町２丁目１９番地　豊田市こども発達センター内
ＴＥＬ：０５６５－３２－８９８０
http://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/bora.html

<平成１８年度助成事業＞

地方分：高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人
メディカル・コミュニケーション・ネットワーク

【がん患者在宅ケアを支える地域連携促進事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

がん患者家族の望む在宅ケアサービスが速やかに受けられるような医療と福祉・地域連携システムの構築を促進するためのシンポジウムやヒヤリング調査の実施・地域連携促進のためのガイドブック作成

＜評価部会委員によるコメント＞

がん患者の在宅生活を支える地域連携をテーマに、医療・看護職を福祉職、さらに当事者参加型のしくみを形成する準備段階として、調査、フォーラムを行った。

実際に地域連携のモデルづくりにまでは至っていないが、今後ますます重要になってくる在宅支援の方向性を検討するための基礎的基盤を生み出したように考える。

１９年度も、がんライブラリーステーションの設置など、積極的に事業を展開している。

＜助成事業による成果物など＞

○記録集「がん患者の在宅ケアを支える地域連携フォーラム」

○フォーラム開催チラシ

○プログラム

（団体の問い合わせ先）

〒466-0027　愛知県名古屋市昭和区阿由知通４－７　グローバル御器所５Ｂ

ＴＥＬ：０５２－８５１－７１１３

http://www.tokai-medi.co.jp/index.html

<平成１８年度助成事業＞

地方分：高齢者・障害者福祉基金

社会福祉法人　四日市福祉会

【知的障害者の社会参加推進支援事業】

（助成金額：８５８千円）

＜事業の紹介＞

授産作業として取り組んでいるパン作りに、地元の産業や商店と連携して「地域通貨」システムを導入するために必要な資機材の整備や講習会を開催する。

＜評価部会委員によるコメント＞

知的障害者によるパン作りの試みを発展させるための「地域通貨」という手法が妥当だったかは一考の余地があるが、今回の助成事業を通じて地域の人とのつながりをしようとした点、また少しずつではあるが地域とのつながりができてきた点は評価できる。今後の継続にも強い意志を持っており、期待したい。

＜助成事業による成果物など＞

○地域通貨「ブルーマネー」

○チラシ

（団体の問い合わせ先）
〒510-0007　三重県四日市市別名３丁目３－１０
ＴＥＬ：０５９－３３１－８６６０
http://www.blooming.or.jp/

地方分：高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人　恒河沙母親の会

【ＮＰＯ法人恒河沙母親の会による飲食店運営事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

目的：社会的ひきこもりや不登校等の若者への就労支援活動の拠点として、また利用者と家族・地域との交流の場として、新規に飲食店運営に取り組む。利用者のコミュニケーション力の向上と、社会的ひきこもり等の当事者や家族に対する理解と支援の輪を広げる。

内容：町屋を改装し、飲食店を開店。作業所の昼食づくりや喫茶店としての食事を提供。また、閉店時間を活用し、利用者の居場所して活用するとともに利用者家族・地域住民を対象とする講習会や勉強会を開催。

＜評価部会委員によるコメント＞

団体の目的と事業には、市民の中でよい地域社会をつくろうという意欲を感じられた。市会議やマスコミも注目しているなど社会的視点に立っている。利用者が楽しく利用していることが分かり、また、改装された町屋はフルに活用されているようである。

（団体の問い合わせ先）
〒602-8288　京都府京都市上京区中立売通千本東入田丸町３７９－３
ＴＥＬ：０７５－４１４－４１９２
http://gougasya.hp.infoseek.co.jp/

地方分：高齢者・障害者福祉基金

障害者の地域生活をつくる結の会

【障害者と地域の交流事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

　オリジナルの楽曲をつくり障害者と健常者の合唱団によるコンサートを開催し、障害者への理解と地域との共同の輪を広げると共に、グループホーム開設へのステップとする。

＜評価部会委員によるコメント＞

　作業所のメンバーと地域の方が参加するコンサートを開催、総勢２７０人が出演し、４２０人の観客を集めた。コンサートでは地域の中学生、高校生も出演し、高校生は手話での合唱を披露した。他の作業所や施設の利用者、職員にも合唱への参加を呼びかけた。今回のコンサートの目的は、障害のある人たちの地域での生活へのより深い理解、賛同、支援の輪を広めることで、最終的にグループホームの建設を目指している。そのため、コンサートでは作業所の利用者と職員による芝居も披露したり（障害者がソロで歌う場面もあった模様）、プログラム内で障害者福祉の現状を訴えるなどしている。町全体のいろいろな世代を巻き込んだコンサートで、演奏された曲も一般によく知られたものからオリジナルの楽曲まで幅広い。コンサート後はその開催報告も兼ね県の障害福祉課へ行き、グループホーム等建設に向けての実質協議をし、２０年度より６～７年計画でグループホーム等を建設することに決まるという目覚ましい成果をあげた。

＜助成事業による成果物など＞

〇ポスター　〇ニュース　〇チラシ

〇プログラム　〇ＤＶＤ　〇歌集

（団体の問い合わせ先）
〒798-0041　愛媛県宇和島市三間町増田２０
ＴＥＬ：０８９５－２０－７１２８

地方分：高齢者・障害者福祉基金

美容セラピー推進会

【化粧療法による高齢者支援事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

メイクの施術と心のケアを同時に行う化粧療法を通して高齢者の積極的な社会参加意識を向上させるとともに、化粧療法の普及と施術者の育成を目的に講演会や化粧療法士育成セミナーを開催し、高齢者の心身両面での豊かさと健康状態の向上を図る。

＜評価部会委員によるコメント＞

単なるメイクセラピーの技術の修得のみならず、高齢者への接し方、心理、傾聴の重要性なども重視した研修内容となっている。受講者による施術実習においても、高齢者に精神的・身体的変化が現れたりと、実質的な効果は予想以上であった。また、受講者自身も自己覚知や自己啓発につながるプログラムとなっており、単なる技術講座に終始していない。

また、メイクセラピーに関する知識についての講演も行い、併せて関心を持った聴講者を「メイクセラピスト育成講座」に結びつけるきっかけとしている。単に技術面だけでなく、メイクセラピーの持つべき理念をも伝えようとしている。

（団体の問い合わせ先）
〒891-0141　鹿児島県鹿児島市谷山中央７－４　氣粧院内
ＴＥＬ：０８０－３９５５－９２９２
http://bi-sui.jugem.jp/

地方分：高齢者・障害者福祉基金

特定非営利活動法人　ヘルスプロモーションかごしま

【離島におけるＡＤＬ体操指導者養成事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

離島における高齢者や障害者の方々が元気で生きがいをもって日常生活を送れるよう、ＡＤＬ体操の普及とその指導者養成を目的に離島３か所でセミナー・フォロー研修会を開催することで、介護レベルの緩和と社会復帰の手助け、また適切な介護サービスの提供を図る。

＜機構事務局によるコメント＞

本団体は、２０年近くにわたって幅広い層の健康・体力づくりのための運動の普及啓発に携わってきた。代表者は元体育教員であり、専門家からの指導も仰ぎつつ、北欧における高齢者体操なども非常に熱心に研究し、理論的なバックボーンも固めている。近年、単に健康体操の視点からの専門性だけでなく、高齢者や障害者などの持つ心身の特性などを考慮に入れたADL体操の普及、指導者の養成に力を入れていたところ、県下の離島からの研修開催の要請が強く、今回の事業計画に至った。各地元の社会福祉協議会などと連携を図りつつ、福祉・医療関係者の参加を得て指導者の養成を実施したところ、非常に好評を博した。移動などの経費を考えると、本助成がなければ実現できなかったと言う。また、この事業をきっかけに奄美、徳之島などには支部ができ、活動が広がり、継続しつつある。未実施の他の島（喜界島、与論島など）からも実施要請が来るようになった。これらの成果に弾みをつけ、１９年度も県下各地において、研修会等を継続的に実施している。

＜助成事業による成果物など＞

〇講演会資料

（団体の問い合わせ先）
〒890-0034　鹿児島県鹿児島市田上４－７－２４
ＴＥＬ：０９９－２０６－３５６０

地方分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　子育て応援・ペンギンくらぶ

【子育て支援のための情報誌作成事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

子供の遊び場情報誌を作成し、安心して育児ができる環境を整える。

＜機構事務局によるコメント＞

子育てに必要な応援ガイドブックを２種類作成・配布し、予定どおりに情報提供が行えている。１つは、茨城県内４６ヶ所の公園ガイドで、各々詳細データが掲載されている。もう１つは、県内主要駅と利用施設１６ヶ所の詳細データが掲載されたバリアフリーガイドで、いずれも出掛ける際に役立つものとなっている。表紙を除き、紙面はモノクロであるが、利用者が必要としている情報内容はコンパクトにまとめられていて、質の高い成果物が作成できている。今後の活動展開に期待がもてる。

＜助成事業による成果物など＞

〇冊子「いばらき公園ガイド」

〇冊子「子育てバリアフリーガイド」

（団体の問い合わせ先）
〒310-0011　茨城県水戸市三の丸１－５－３８　　交流サルーンいばらき内
ＴＥＬ：０２９－２７１－９４５０
http://www.ne.jp/asahi/mi/to/penguin/

地方分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　みれっと

【アレルギーっ子の子育てネットワーキング・サポート事業】

（助成金額：９８１千円）

＜事業の紹介＞

巡回キャラバン「アレルギーっ子の親のための交流・情報交換会」を１１ヶ所、市町村を替えて開き、疾患児を抱える親に情報提供や仲間づくりの場、不安の解消の手助けと相談を行い、行政と協働しフォーラムを開催し総括とする。

＜評価部会委員によるコメント＞

喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患を持つ子どもを抱える参加者を対象に、行政の理解を深める効果も狙いつつ、埼玉県下各地の保健所を会場に「交流情報交換会」を実施した。団体側がファシリテーターとなり、ピアカウンセリング形式で実施された。実施内容は好評を博し、この事業をきっかけとして各地に５つの小グループが活動を開始した。団体の活動にも弾みがつき、大学において食物アレルギーの調理実習講座を開いたり、会員数も増加した。また、「交流情報交換会」やフォーラムの開催を通して、いくつかの保健所とも協力関係が構築され、合同で研修会などを企画実施するようになった。１９年度についても、他の各種助成金の申請に果敢に挑戦し、事業の継続・拡大を図っている。

＜助成事業による成果物など＞

〇チラシ

〇パンフレット

（団体の問い合わせ先）
〒330-0834　埼玉県さいたま市大宮区天沼町１－３０２－２
ＴＥＬ：０４８－６４２－０５５３
http://www.npo-millet.com

地方分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　ｉ－ｎｅｔ

【浦安子育て支援ネットワーク形成事業】

（助成金額：１，７９２千円）

＜事業の紹介＞

地域で活動する子育て支援ネットワーク（個人、サークル、市民活動団体、ＮＰＯ、行政、企業等）の協働による「子育て応援メッセ（見本市）の開催及びメッセの情報を中心に「子育てガイドブック」の作成しその情報を提供する。

＜評価部会委員によるコメント＞

本事業は、新興住宅の多い地域、都市に子育てに関する地域ネットワークを形成するため、地域で活動する子育て支援団体の協働による子育て応援メッセの開催と子育てガイドブックを作成する事業を一体として行ったものである。i-net が中心となって実行委員会を形成したうえで実施した結果、子育て支援団体間の理解が深まり、今年度は浦安市の補助や企業の協賛も得て、文字通り実行委員会方式での実施が可能となるなど、ネットワークは形成されつつある。メッセ参加者も 1,300 人を越え、いくつかの課題はあったものの、ほぼ成功裏に終了している。メッセにおける情報も盛り込んだ浦安子育てガイドブックは 5,000 部作成し、人気が高い。これらは、編集という i-net メンバーの専門性に負うところも大きい。また、親たちもボランティアとして作成に協力している。今後は、この種の活動を継続することにより、行政との協働を確実なものにしていくことが望まれる。子育てメッセの開催と子育てガイドブックを一体として実施し、しかも、いずれもほぼ成功している。

＜助成事業による成果物など＞

○報告書「Welcome 浦安　子育て応援メッセ 2006　実施報告書」

○メッセ開催チラシ

○冊子「浦安子育てガイドブック 2007」

（団体の問い合わせ先）
〒279-0013　千葉県浦安市日の出１－３　海風の街２１－１０６
ＴＥＬ：０４７－３５０－８６１５
http://npo-i.net/

<平成１８年度助成事業＞

地方分：子育て支援基金

社会福祉法人　荒川区社会福祉協議会

【荒川区子育て・子育て支援団体情報発信事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

子育て支援ネットワーク構築のため、ＷＥＢサイトの立ち上げＷＥＢサイトの内容の追加・更新についての講習会の実施新たな支援ボランティアグループの創出

＜評価部会委員によるコメント＞

Ｗｅｂサイトの立ち上げという成果そのものもさることながら、その過程にさまざまな力を結集することに極めて重要な意義があったという点で、高く評価できる。知識やスキルの習得によって学び成長する喜びを得た人も多く、地域に存在するさまざまな人的資源をうまく発掘･育成していく事業になっている。講習会には託児を用意するなど、ボランティアの活用も含めて、上手く運営されており参考になる。地域社協が取り組みにくい子育て分野における事業の成功例といえよう。

＜助成事業による成果物など＞

〇Ｗｅｂサイト制作

（団体の問い合わせ先）

〒116-0003　東京都荒川区南千住１－１３－２０

ＴＥＬ：０３－３８０２－２７９４

http://homepage2.nifty.com/arakawa-shakyo/

地方分：子育て支援基金

てんぱくプレーパークの会

【野外におけるつどいの広場事業】

（助成金額：１，３６０千円）

＜事業の紹介＞

野外で子育て相談や情報提供を行いながら、野外での遊びの楽しさを知ってもらい密室育児からの開放を目指す。

＜評価部会委員によるコメント＞

現在の子どもを取り巻く環境の急激な変化の中で、豊かな自然の中で自由闊達に遊ぶ昔の懐かしい子どもたちに出会った、そんな感じの子育て支援事業であり、「ほっとする空間」がある全国にも数少ないプレーパーク事業でもある。プレーリーダーと、ここで遊んだ子の親の有志を確保し、年間２４０日、よりよい遊び場を保障している。こうした日常活動の上に、就園前の子と親を対象に実施したものが「野外におけるつどいの広場事業」であり、①「つどいの広場」（親子を対象とした外遊びと友達作り）、②親を対象とした「学びの広場（講座）」ビギナーコース、③親を対象とした「学びの広場（講座）」スキルアップコースの３つに分かれている。毎週延べ５０～１００組の親子が参加し、この事業の中で親の積極的な活動もみられるなど、子育て中の親のパワーを再認識し、会の新しい資源となりうることを発見したようである。今回事業を通じて、「子ども一般」だけでなく、「就学前の子と親」という新しい対象を発見したのではないか。

＜助成事業による成果物など＞

〇報告書「森のひろば」

〇チラシ

（団体の問い合わせ先）

〒468-0056　愛知県名古屋市天白区島田２－３０１－２－１１０９

ＴＥＬ：０５２－８０１－１９９０

http://tenpaku-playpark.com/

地方分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　芹川

【芹川プレイパークのびのび事業】

（助成金額：１，２５７千円）

＜事業の紹介＞

子どもたちが野外で遊べるプレイパークを地域住民と共に建設する。

＜評価部会委員によるコメント＞

彦根市の琵琶湖に注ぐ「芹川」の清掃事業は、地元の多くの自治会が行う活動だったが、一時期中断していた。その後７つの自治会により、住民有志による清掃事業が再開した。月１回の清掃事業と共に、地域の子どもを巻き込む様々な活動を通じ、地域住民の繋がりを基盤として誕生したのがこの法人である。今回の「芹川プレーパークのびのび事業」は、この川沿いの細長い市有地の一部を借り受け、公園用地を整備し、「プレーパーク」を設置しようとしたものである。整地に業者を利用するほかは、フェンス・柵の材料の調達・柵の設置等、地元自治会やボランティアにより行われ、設置工事自体が住民参加の事業であった。ＮＰＯ事務局は、地元の同世代の仲間と様々な繋がりを持つ方で、豊かなアイディアに基づく様々な活動を通じた繋がりの１つがこのＮＰＯである。その後も、芹川を散策する人の休憩の場として、プレーパークに隣接して「晒庵」の建設（市の既存の建物の改修)、「リンゴ園」等を設置している。これらの活動を「自治会と市民活動団体の協働」と整理されているが、自分が生まれ育ったまちの自然・伝統を残そうという住民主体の「まちづくり」活動の一環であるといえると思う。

（団体の問い合わせ先）

〒522-0051　滋賀県彦根市中藪町７２２－１

ＴＥＬ：０７４９－２３－８２７２

http://nposerigawa.com/

<平成１８年度助成事業＞

地方分：子育て支援基金

社会福祉法人　西陣会

【高学年障害児童の家族支援とインクルージョン推進事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

目的：障害のある高学年児童の週末および長期休暇中の居場所を提供することで、子育て支援・就労支援につなげる。また、中高生のボランティア育成をすすめ、障害の有無を越えての交流や自己実現のできる居場所作りをすることで、地域健全育成活動に寄与する。

内容：障害児を抱える家族の実態調査、事業効果の調査アンケート）の実施。障害児の親への勉強会の開催。中高生ボランティアおよび児童館ボランティア養成講座の開催。バケーションクラブおよびサタデーフィーバークラブの実施、中高生による企画行事の開催。事業の報告書作成と、障害児を送迎するための車両の購入。

＜評価部会委員によるコメント＞

高学年障害児の土曜日と長期休暇中の居場所づくり事業に取り組み、その結果のデータの活用や携わった関係者と共同した市への要望を行い、「中高生のタイムケア事業」として実現させ、市内２０ヶ所で翌年の２００７年より実施が開始されるという大きな成果をあげたことは、高く評価される。２０ヶ所での新しい取組みは経験がないため、とまどいが多くの実施団体であったが、見学を受け入れ、進め方やノウハウ等を広げ、スムーズな事業実施にも貢献した極めて波及効果の高い取組みであった。

事業の企画・計画が綿密に立てられていること、事業への取組みの過程がプロセスを大切に着実に手順を追って行われている。特に多くの関係者の参加する事業検討委員会の組織化、事前ニーズ調査、効果測定、学習会、ボランティア講座等の取組みが、適切な時期に行われ、事業のその後の展開に効果的に役立てられている。

＜助成事業による成果物など＞

○報告書「障害のある高学年の子どもたちの　つどう　あそぶ　つながる　ハンドブック」

（団体の問い合わせ先）

〒602-8464　京都府京都市上京区元誓願寺通千本東入ル

ＴＥＬ：０７５－４５１－８９７１

http://nishijin.org/

地方分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　山科醍醐こどものひろば

【みんなで創る「山科だいすきガイド」事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

目的：子どもだけでなく、その親を対象とした、生活に密着した事項を紹介する生活援助誌を作成することで、子どもたちが喜んで地域で過ごせ、親たちへの子育て支援につながり、地域住民の誰にとっても豊かな町・住みやすい町になることをめざす。

内容：地域の「子どもやその親を対象にした情報「ガイドブック」の発行と、作成を通じた参加者への「内在させている力を発揮する場」「自己を認める自己実現の場」の提供、および参加者間での地域おけるネットワークの基盤づくり。ガイドブックの発行を記念したイベントの開催とガイドブックの配布。

＜機構事務局によるコメント＞

主に子どもに向けた山科地域のガイドブックを作成した。小学生から中学生もスタッフとなり、子どもたちの意思を尊重して彼らの体験を基に記事を作っていき、大人向けにも保育所や小児科情報、子育ての悩みの解決の糸口などを載せている。アンケートも含めると延べ３００人以上が参加した。完成したガイドブックを区内の全小学生に配ることができただけでなく、製作過程で異年齢の子ども同士で交流ができ、また小学校とも友好な関係を築けるようになってきている点がポイントである。また、当法人でこのようなガイドブックを作るのは3回目とのことだが、数年おきに更新版を作成して欲しい。

＜助成事業による成果物など＞

○冊子「だいすき！山科ガイドブック」

○「だいすき！山科ガイドブック」報告書

（団体の問い合わせ先）
〒607-8088 京都府京都市山科区竹鼻地蔵寺南町２－１
ＴＥＬ：０７５－５９１－０８７７
http://www.kodohiro.com/

地方分：子育て支援基金

たんぽぽハウス

【市民病院小児病棟の為の宿泊施設開設の運営事業】

（助成金額：１，２６０千円）

＜事業の紹介＞

市民病院小児科病棟における患児に付き添う家族のために宿泊施設確保と内部の充実を図る。宿泊施設賃貸、不足の寝具や家庭用品等の購入。施設開設により、家族のくつろげる環境と交流の場を確保し、安心して看護に専念してもらう。

＜機構事務局によるコメント＞

熊本市民病院の小児病棟に入院している患児とその家族を支援するために、宿泊施設を開設運営されたものである。当助成金では、主に家賃補填と必要な家電製品や寝具類を中心に設備整備が行われている。施設は、病院から近くて安心且つ低料金で提供できており、患児と家族のＱＯＬが高まるほか、精神的・経済的負担軽減につながっていることから、その役割と意義は大きい。（年度中には延べ宿泊数２７７の実績。）また利用者ノートにも、家族からの感謝いっぱいの言葉で占められている。

＜助成事業による成果物など＞

○リーフレット

（団体の問い合わせ先）
〒861-8084　熊本県熊本市清水岩倉３丁目６－５
ＴＥＬ：０９６－３３９－６３７９

地方分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　ふれあい囲碁ネットワーク大分

【ふれあい囲碁を活用した地域づくり推進事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

ふれあい囲碁を活用し、子育てを地域社会全体で見守りながら支援していく体制作りをする。

＜機構事務局によるコメント＞

簡単な囲碁ゲームを通して、まさに老若男女、障害の有無、国籍を問わず、地域を巻き込んだ交流事業が実現できている。準備段階より、行政、学校、自治会、民生委員などとともに検討・研修を進めている。県総合福祉会館で実施されたふれあい囲碁交流会・分科会では、あらゆる年齢層、障害のある方など２５０人が競技を楽しみ、分科会においては、競技によってアイスブレーキングできた雰囲気のまま地域づくりなどを考えることができた。多くのメディアにもとりあげられたユニークな事業であった。今後の展開も楽しみである。

＜助成事業による成果物など＞

〇ガイドブック「“ふれあい囲碁”を使ってみませんか」

〇ポスター

〇チラシ

（団体の問い合わせ先）
〒870-1176　大分県大分市富士見が丘東四丁目１１－７
ＴＥＬ：０９７－５９４－７７８８

<平成１８年度助成事業＞

地方分：子育て支援基金

特定非営利活動法人　ハートスペースＭ

【デートＤＶ防止プログラムの実施と啓発事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

　ＤＶは大人だけの問題ではなく、若者たちの間でもすでに広くおきており、それをデートＤＶという。非暴力プログラム「デートＤＶプログラム」は、自分を大切にし、相手も尊重する関係を効果的に学べる、健康教室の一環といえる。

＜機構事務局によるコメント＞

　当該事業は、親密な関係にある若者たちの間に広く起きているさまざまな暴力（以下「デートＤＶ」という。）の防止と啓発を目的としたものである。教職員向けと生徒（中学校）向けのデートＤＶ防止プログラム実施により、理解を深めることができたとともに今後の活動への礎となったことには意義があり、教育への有効性が見られる。また制作したＤＶＤにより啓発活動が行なわれている。内容はわかりやすいように心掛けられ、コストパフォーマンスとしても申し分なく、活用性にも期待がもてる。

　事業実施にあたっては、機構助成というネームバリュー効果があったため、県の教育委員会や従前から接してきている地元の宮崎日日新聞からスムーズに後援・協力が受けられたとのことで、一役を担えたことは喜ばしいことである。

　本事業を継続発展させていくためには、学校との連携強化は不可欠であるので、今後の取組みに期待したい。

＜助成事業による成果物など＞

〇報告書「平成１８年度デートＤＶ防止プログラムの実施・啓発事業報告書
　　　　～子どもたちへの非暴力メッセージ～」
〇ＤＶＤ「デートＤＶ防止プログラム　啓発ビデオ」
〇チラシ
〇講座プログラム

（団体の問い合わせ先）
〒880-8691　宮崎中央郵便局私書箱１７号
ＴＥＬ：０９８５－２９－２５５１

地方分：障害者スポーツ支援基金

宝塚障害者スポーツクラブ・ボッチャ部

【障害者スポーツ推進・選手育成事業】

（助成金額：２，０００千円）

＜事業の紹介＞

重い障害を持っていても「ボッチャ」が出来るよう啓発していくとともに、チームの強化と育成をめざし、用具の購入や練習試合の強化に取り組む。

＜機構事務局によるコメント＞

経費の多くはボッチャ競技用具の整備だが、当初計画を大きく上回る普及啓発活動の実施、大会参加と優秀な記録の獲得など、果敢に活動している様子が伝わってくる。時に障害に対する偏見などとも遭遇しながらも、それを乗り越え、小学校や市内イベントなどでデモンストレーションを行ったり、各種の大会へも盛んに挑戦し、優秀な記録を残している。他地域の競技団体との交流も着実に生まれ、メンバーの活動に対するモチベーションの上昇も大きかった様子である。また、ホームページについても経費上は作成のマニュアル本の購入だけだが、非常に洗練された、見やすいものを構築している。メンバーが、助成金の額の大きさと責任を大きく認識し、真剣に事業が実施されたことが非常によく伝わってくる。

＜助成事業による成果物など＞

〇チラシ

（団体の問い合わせ先）
〒665-0822　兵庫県宝塚市安倉中２丁目５－３６
ＴＥＬ：０７９７－８４－４７０５
http://sports.geocities.jp/boccia_takarazuka/

<平成１８年度助成事業＞

地方分：障害者スポーツ支援基金

特定非営利活動法人　吹矢ｄｅ元気！協会

【せぇ〜の「ふっ〜！」で、みんなが元気！になる楽しい「吹矢」ニュー・スポーツ推進事業】

（助成金額：１，８２６千円）

＜事業の紹介＞

重度心身障害児をはじめとする障害者等が自立した生活を送ることができる社会を実現するため、吹矢は呼吸機能改善効果が高く、「呼吸力」による健康づくりを行うことにより、心身の健康増進と活力を養い、併せてニュースポーツの推進につながる事業である。

＜機構事務局によるコメント＞

一般市民のレクリエーション・スポーツの指導の中で、レクリエーション指導者の本協会の理事長が、誰でも楽しめるスポーツとして吹き矢を取り入れた。これがきっかけで障害者も含め多くの人たちが関心を示すようになった。そこで今回、呼吸機能に障害を持つ人は勿論、重度の心身障害者などにも吹き矢に親しんでもらおうと計画された事業である。

事業の中心は、吹き矢教室で、６月から２月までの７ヶ月間に延べ７０回（１２会場）の教室が開催されている。この中には障害者だけでなく、その家族や介助者、また、福祉系、医療系や教育系の学生なども受講するように発展している。さらに、インストラクターの養成講習なども行われている。

さらに呼吸機能のリハビリテーションとして医師が関心を示し、協力が得られるようになったり、ある学会で成果の発表依頼があったり、マスコミもかなり取り上げている。

＜助成事業による成果物など＞

〇報告書「平成１８年度長寿・子育て・障害者基金助成事業報告書」

〇チラシ

（団体の問い合わせ先）

〒880-0823　宮崎県宮崎市北権現町１１０－３３

ＴＥＬ：０９８５－３２－３５２１

http://blog.canpan.info/fukiya